

教育委員会

コラム Vol.8

教育長室の窓から

承継創造

よく、継承という言葉聞くことがあるかと思いますが。似た意味の言葉に、承継というのがあります。

承継（理念や思想などを引き継ぐ、先人からの精神などを引き継ぐ）

継承（身分、権利などを引き継ぐ）

一般的なイメージでは、継承が正しいと思われがちですが、法律用語としては承継の方が適切な表現だそうです。

本町の教育の理念として「承継創造」（先人から学び引き継ぎ、新しい価値を創り出す）を掲げたいと考えています。肝付町の歴史・伝統・文化・自然、そして記憶などを未来につなげ、ふるさとに誇りを持ち、変革の時代をリードする人材を育てる教育を創造し、持続的な町づくり、地域づくりへつなげ、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せの実現に貢献できる教育を目指したいと思います。

ところで、本町では今年、「きもつきのデジタルビジョン」を策定しました。教育委員会では、デジタルビジョンを踏まえ、立場や能力、年齢などを限定しない「デジタルとアナログを基盤としたシームレスな学び」を大切にしたいとの思いから今年度取り組んでおり、令和7年度にも引き継ぎたいと考えています。

何かを教えたり与えたりしすぎるのではなく、能動的に自らの学び・行動をデザインし、教え・学び合い、行動する子ども・大人を育てるために、学校教育の充実、社会教育・生涯学習の充実を図って参ります。



教育長の

ちょっといい話

ネーミング

「せいっぱい」「えのき」「まいちもんじ」「さざなみ」何かお分かりでしょうか？

まだの方のために「大榎」「叶岳」いかがでしょうか。「きしら桜」「波野っ子」「国見の風」「国見小だより」までくればお分かりかと思いますが、本町の小・中・義務教育学校の「学校だより」のネーミングです。掲載されている行事などから子どもたちの様子、学校の様子が分かる素晴らしい内容のものばかりで、校長先生方のご苦労が伝わってきます。（私も校長の時に「校長室だより」のネーミングをつけ、ほぼ毎日書いていたのを懐かしく思い出します。）

ところで、製品や商品は、ネーミングのよしあし（言いやすさ、親しみやすさ、感じのよさ）が売りに大きく影響するそうです。ネーミングの基本は、キーワードになる二つの言葉（文字数の少ないキーワード、響きの強いキーワードなど）を組合せるそうです。コーヒーと牛乳で「コーヒー牛乳」という具合です。

本町の学校だよりのネーミングには、特徴があり、分かりやすく、学校のイメージが脳裏に浮かび、素晴らしいものばかりです。

それに対して、「教育長室の窓から」「ちょっといい話」も、9ヶ月目を迎えます。ネーミングとして、馴染んでいただいているでしょうか。

